

令和7年度芦東山記念館運営委員会 会議録

- 1 会議名 令和7年度芦東山記念館運営委員会
- 2 開催日時 令和8年3月16日（月）午後1時30分から午後2時45分まで
- 3 開催場所 芦東山記念館ホール
- 4 出席者
 - (1) 委員 及川雅晴委員（委員長）、芦宏委員（副委員長）、
片岡龍委員、新渡戸恵子委員、太田行宏委員、松田薫委員
 - ※欠席者 佐野修弘委員
 - (2) 事務局 中村安宏名誉館長、山谷英樹館長、千葉修子館長補佐、
高橋紘主任学芸員、張基善専門学芸調査員、
千葉真由美業務推進員、千葉浩子業務推進員

5 議 題

(1) 令和7年度事業経過報告

ア 令和7年度自主事業実績報告等

- ・ 特別展、講演会等の開催状況
- ・ 芦東山記念館年報の発行
- ・ その他事業及び協力活動
- ・ 令和7年度入館者の推移
- ・ 令和7年度団体入館一覧
- ・ 芦東山記念館ホームページアクセス数

イ 令和7年度調査研究事業実績報告

(2) 令和8年度事業計画（案）

ア 令和8年度事業計画（案）

イ 令和8年度調査研究事業計画（案）

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 挨拶

中村安宏名誉館長

本日は年度末のお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。名誉館長の中村安宏と申します。どうぞよろしく申し上げます。

今年度当館ではいくつかの事業を行いました。後ほど報告があるかと思いますが、大きな事業も行いまして、先日は特別展の記念シンポジウムを行い

ました。安倍氏から平泉藤原氏期にかけての居館跡であることが判明した水無 I 遺跡をテーマとしたものです。

そのほか旧芦家の資料について、顕彰会あるいは岩手大学の学生などと調査を行いました。それから年報も発行しました。これらについても課題等あると思いますので、ご指摘いただけたらと思っています。

それから来年度は芦東山没後250年ということで、記念の企画を考えております。令和9年10月1日で開館20周年ということで、これに向けてどうやっていくかということを考えているところです。名前だけは知っているけれどどんな人かわからないということもありますし、地元の人にも遠方の人にも満足いただけるようなことができればと思っていますので、このあたりのこともアドバイスいただけたらと思っています。よろしくをお願いします。

9 委員長及び副委員長選出

委員の互選により委員長に及川雅晴委員、副会長に芦宏委員が選出された。

10 審議内容

(1) 令和7年度事業経過報告

ア 令和7年度自主事業実績報告等

事務局から、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 5ページの団体入館一覧の中で、2小団体の15番、國學院大學の方々は、調査か何かで来たのか。内容がわかれば教えてほしい。

事務局 調査ではなく、ゼミ旅行の一環であった。当館の主任学芸員との縁で、先輩の働きぶりや一関市の博物館がどのように運営されているかということを見学に来たものである。

委員 先日行われた記念シンポジウムは良かった。ずいぶん人も来た。芦東山を発信するためにもすごい力になったと思っている。

またこのような企画をやっていただけたらと思う。

事務局 当初100人の来場を想定していたが、150人の来場をいただいた。資料が不足しご迷惑をおかけした。この時代への地域の皆さんの関心の高さがうかがえた。東川院の御仏様と遺跡にどんな関わりがあるかなど、地元の方々にも喜んでいただける内容となり、実施して良かったと思っている。

委員 地元の水無遺跡が実はすごい遺跡だったということを学ばせてもらい、とても良かった。令和8年度の渋民振興会の事業で「地元渋民を知る」という計画を立てた。その際には、記念館の皆さんにご指導いただきたいので、よろしくお願ひしたい。

また、入館者について、一度少なくなったのが右肩上がりになってきた。道の駅の開業ばかりでなく、やはり工夫されているのだなと感じた。せっかく右肩上がりになってきているため、少しずつでも増えていくと良いと思った。これからも特別展を工夫して実施していけばいいと思う。

委員 学校では総合的な学習の中で学芸員を招いて授業をしていただいたし、芦東山記念館内も見学させていただいた。「地元の人を知る」ということを本校では総合的な学習の中に位置付けているが、大東地域の他の学校でも来ていただけるとよりいいと思った。その際にクイズラリーのようなものがあるといいと思った。そういうものがあると興味を示してくると思う。ゴールデンウィークのクイズラリーに5、6人は残念だと思った。3年生の授業では民俗資料館に行っており、それと合わせながら、小学生や、それより小さい人も、その後にここに立ち寄るような、謎解きのような事業が組めればすごく面白いと感じたところである。

子どもたちが面白いと思えば、保護者の方たちが連れて来るので、大人の来館者も増えると思う。その周知を各学校にチラシでもいただければと思う。

事務局 これまでもチラシで周知はしていたが、今後もそのように周知したい。

イ 令和7年度調査研究事業実績

事務局から、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 芦家住宅の整理作業について、芦東山先生顕彰会からも三役ほか4人が参加した。暑い中行ったが、先日の成果報告会において、芦東山先生の書状を成果として紹介いただき、実施して良かった、みんなで頑張った甲斐があったと思った。令和8年度も芦東山先生顕彰会で協力しながら実施したいと確認している。来年度は芦東山の没後250年で、令和9年度が開館20周年である。芦東山先生顕彰会としても何とか盛り上げていきたいということで、今進めているところであり、今後ともよろしくお願ひしたい。

委員 芦家住宅はいつも閉め切っているが、建物の傷みはないか。

事務局 屋根に傷みがある。定期的に風を通したりしているが、常時そのような状態ではない。建物は市の指定文化財でもあるので、課題になっている。

委員 仙台藩の武家住宅としてあのくらいの物はなかなか無いそうだ。

委員 それぞれの調査整理事業で成果報告会をし、成果報告会の資料や大学ではポスターにまとめるなどしていると思うが、何らかの形で保存ができればいいと思う。だいたいその時の資料は、参加した人のみが持って帰るだけになってしまう。最近はオンラインでの開催も多くなっているため、将来的には

資料や動画の公開を考えていけばいいのではないかと。

事務局 概要をまとめた資料とパワーポイントを作成しているので、諸々の条件をクリアすれば、たとえば当館のホームページなどで公開も可能かと思う。名誉館長講座の資料もホームページで公開している。検討させていただきたい。

委員 芦東山先生顕彰会の集まりの際に芦家住宅の屋根の葺き替えについて話があった。お金はかかるだろうが、芦東山先生顕彰会の会長からも一関市へ伝えるようにとの話をされていた。ぜひお願いしたい。

事務局 この件は以前に芦東山先生顕彰会の会員からも直接お話を頂いている。一関市は文化財も多く、担当の文化財課に伝えているが、今後も機会を捉えて伝えておく。

(2) 令和8年度事業計画（案）について

ア 令和8年度自主事業計画（案）について

事務局から、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 特別展①「妖怪展」に関して、10年くらい前に友人から井上円了の屏風をいただき、その時は井上円了という人がどのような人かわからなかったが、その後岩手日報を見て、どのような人かわかった。東洋大学を設立するため、全国各地を回りお金を集めていたとのこと。

事務局 日本で初めて幽霊を科学的に研究した人として知られている。東洋大学を設立するため、全国各地で講演をしながらお金を集めていた。大正6年の東磐井地域について書き記した記録があり、妖怪と絡めながら紹介したい。

委員 特別展②「芦東山没後250年記念展」に関して、関連シンポジウムまたは、講演会とあるが、どのくらいの規模を考えているか。

事務局 未定である。芦東山単体ではなく芦東山と何か、例えば芦東山と仏教など、芦東山の周辺のものを取り上げながら、芦東山に関心を持ってもらえるようなことを実施していきたい。事業規模でいうと今年度行ったシンポジウムのような形を室蓬ホールで実施する、というのも一案であるが、芦東山記念館のホールで行い、そのまま展示をご覧いただくというような形も考えている。

イ 令和8年度調査研究事業計画（案）について

事務局から、説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 先日、友人が、自身が所有している芦東山作とみられる書の印と広報いちのせきで紹介されていた印が同じだと思い、芦東山記念館に持って行って見てもらったと喜んでいました。このような問い合わせはあるか。

事務局 地域の方が持っている芦東山のものと思われるものについて、年何回か問い合わせが来ることがある。地域に残っているこのようなものは芦東山記念館ではなかなか把握できないので、そういう方々からの情報は非常に大事である。

11 担当課 芦東山記念館（大東支所地域振興課）